

第21回アジア・メガシティ大学間セミナー

札幌市藤女子大学にて、2016年7月2日（土）～3日（日）に、第21回アジア・メガシティ大学間セミナーが開催された。筆者は2014年のソウル・漢陽大学での第19回セミナーに引き続いて参加した。今回は、通常の環太平洋の国々に付け加え、イラン、フィンランドなどからも参加・報告があった。筆者は「人口減少国におけるメガシティダイナミクス」というタイトルで、特に近畿大都市圏の人口減少についてその定義と動向を報告したが、同様に、特に中国における、コンパクトシティーや縮小する都市、さらにはゴーストシティーに関する報告も多く、人口が膨張するフィリピン・セブに関する報告が特異に感じられるほどであった。その他、韓国やベトナムの住居変更と需要に関する調査分析、都市と自然環境の相互作用、災害に対するレジリエンス、ソーシャルネットワークを活用した参加型都市計画などに関する興味深い報告が多く行われた。（林 玲子 記）

国際社会学会第3回フォーラム

“The Futures We Want: Global Sociology and the Struggles for a Better World.”と題した国際社会学会（International Sociological Association）の第3回フォーラムが、7月10日～7月14日の間ウィーン大学（オーストリア）で開催された。

国際社会学会は56の Research Committee (RC) からなる非常に大規模な組織である。本フォーラムにおいてすべての RC がセッションを設けたわけではないが、それでも4,000人以上が参加し、総セッション数は700を超えた。人口問題関連のものとしては、RC41 (Sociology of Population) において “Demography of Sexuality in a Changing Social and Legal Landscape”, “Fertility of Ethnic Minorities”, “Demographic Trends and Consequences of Labor Migration” をはじめ、興味深いセッションが多数開催されていた。

当研究所からは、釜野さおり人口動向研究部室長と筆者が参加した。釜野室長は Diana Khor 法政大学グローバル教養学部教授とともに、“Intersectionality and Intergenerational Family Relationships” と題した RC06 (Family Research) と RC32 (Women in Society) との共催セッションを企画し、自身たちも “Practices of Intimacy: Preliminary Results from Focus Group Interviews with Mothers and Daughters in Hong Kong and Japan” というタイトルで報告を行った。筆者は、RC20 (Comparative Sociology) の “Current Research in the Comparative Study of Institutions” というセッションで “The Variety of Attitudes Towards Family in East Asia: A Comparative Study Using Issp 2012” (竹ノ下弘久上智大学教授との共同報告) と題した報告を、RC06の “Convergence or Divergence of Asian Family Values and Practices: Comparative Studies Based on Cross-National Datasets in Asia” というセッションでは “The Variety of Family Life in East Asia: A Comparative Study Using Issp 2012” と題した報告を行った。

先述の通り国際社会学会は極めて大きな組織であり、それゆえに自身が所属していない RC での議論の内容まで把握することが困難であるという問題も感じた。しかしながら、そのように領域の分化が進んだことで、逆説的に「社会学とは何か」という問題意識が改めて参加者間で共有されているように思われた。（藤間 公太 記）